

第二十八回 帝國議會 貴族院議事速記録第十號

明治四十五年三月十六日(七曜日)

午前十時五分開議

議事日程 第十號 明治四十五年三月十六日

午前十時開議

- 第一 請願委員長報告
- 第二 朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第三 假置場法案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第四 陸軍作業會計法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第五 煙草專賣法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第六 水利組合法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

〔東久世書記官朗讀〕

去ル十二日本院ニ於テ否決シタル左ノ衆議院提出案ハ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ建議ハ文書ヲ以テ即日之ヲ政府ニ提出セリ

海外貿易振興ニ關スル建議

同日政府ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案

同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

煙草專賣法中改正法律案

同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

假置場法案可決報告書

一昨十四日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案
特別委員會

委員長 公爵德川 慶久君 副委員長 男爵田 健治郎君
陸軍作業會計法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵松 平 直之君 副委員長 子爵樋口 誠康君

水利組合法中改正法律案特別委員會

委員長 子爵京極 高備君 副委員長 小野田 元熙君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

陸軍作業會計法中改正法律案可決報告書

水利組合法中改正法律案否決報告書

請願委員會特別報告第七號

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

保險業法中改正法律案

樺太酒類出港稅法案

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法中改正法律案

明治三十四年法律第十號中改正法律案

臘虎臘肭獸獵獲禁止ニ關スル法律案

臘虎臘肭獸獵業者等ニ對スル交付金下付ニ關スル法律案

同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

農工銀行法中改正法律案

家畜市場法中改正法律案

鑛業法中改正法律案

國有土地森林原野下戻法中改正法律案

昨十五日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

水道條例中改正法律案特別委員會

委員長 侯爵花山院 親家君 副委員長 伯爵清棲 家敦君

關稅定率法輸入稅表中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵大原 重朝君 副委員長 平山 靖彦君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案

可決報告書

關稅定率法輸入稅表中改正法律案可決報告書

請願文書表第八回報告書

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、議事日程第一、請願委員長報告

〔伊澤修二君演壇ニ登ル〕

○伊澤修二君 本員ハ是ヨリ請願委員會ノ報告ヲ致シマス、前回ノ報告即チ二月十五日ヨリ本月十五日ニ至ルマデニ請願委員會ヲ開キマシタコトガ四回、其分科會ヲ開キマシタコトガ四分科ヲ通ジテ總テ十六回デアリマス、而シテ請願文書表及同委員會特別報告トモ各、四回ノ報告ヲ致シタコトデゴザイマス、請願書ノ受領件數ハ六百六十六件デゴザイマシテ、其連署ノ人員ハ六万三千七百六十一人デゴザイマス、右ノ請願書ヲ調査イタシタ末、其中院議ニ付スベシト委員會ニ於テ議決イタシマシタモノガ百六十六件デゴザイマス、又院議ニ付スルヲ要セズト議決イタシマシタモノガ百六十六件デゴザイマス、デ其院議ニ付スルヲ要セズト云フ中ニハ、全ク採擇セズト云フコトニ決シマシタモノガ七十三件、無期延期ト云フコトニ決定イタシマシタモノガ三十三件アルノデゴザイマス、而シテマダ審査未了ニ屬スル所ノモノガ二十二件デゴザイマス、尙ホチヨット御報告ニ關聯シテ申シテ置キマスガ、事務局ニ於キマシテ此請願ヲ受取りマシテ、マダ請願文書表ニ掲ゲマセヌ所ノ件數ハ三百三十八件アリマスルサウデゴザイマス、玆ニチヨット諸君ノ御注意ヲ請ヒ置キタイト存ジマスノハ、會期モ追々切迫ニナリマスル故ニ、若シ御紹介ノ請願書ガゴザイマスルナラバ成ルベクタケ速ニ御提出ニナルヤウニ致シタウデゴザイマス、若シ遅レマスルト遂ニハ此會期ニ於テ結果ヲ見ルコトノ出來ヌヤウニナルカモ存ジマセヌ、是ダケハ御注意ニ申シテ置キマス、右御報告ニ及ビマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二、朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十五年三月十二日

內閣總理大臣 侯爵西園寺 公望

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載録ス以下之ニ倣フ〕
朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案
朝鮮總督府判事ノ退職ハ官吏恩給ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ之ヲ退官ト看做ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前退職シタル者ニモ之ヲ適用ス

〔政府委員江木翼君演壇ニ登ル〕

○政府委員(江木翼君) 唯今、提出ニナリマシタル朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關シマスル法律案ノ提出ノ理由ヲ簡單ニ説明イタシマス、昨年五月、朝鮮總督府裁判所ノ條例ヲ改正イタシマシテ、朝鮮總督府判事ノ退職ノ制ヲ設ケタノデアリマスル、是ハ内地ノ普通裁判所ニ於キマスル判事ノ退職ノ制ニ倣ヒマシテ恩給ヲ受クルノ權ヲ有セシムルト云フ制ヲ設ケヤウトスル爲ニ、此法律案ヲ提出シマシタ次第デアリマス、是ハ矢張り内地ノ裁判所構成法ニ於キマシテモ、退職判事ハ官吏恩給法ノ規定ニ從ッテ恩給ヲ受クルノ權ヲ有スト云フ規定ガアリマスノデ、之ニ倣ッテ制定セムトスル次第デアリマス、御審議ノ上、協賛ヲ請ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御質問モ無イト認メマスカラ、議事日程ノ第三ニ移ル筈デゴザイマスガ、此際諸君ニ御諮リヲ致シタイコトガゴザイマス、ソレハ衆議院ヨリ送付セラレマシタ保險業法中改正法律案ノ第一讀會ヲ直チニ議事日程ヲ追加シテ開クト云フコトニ御異存ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 保險業法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

保險業法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十五年三月十四日

衆議院議長 大岡 育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

保險業法中改正法律案

〔小字ハ衆議院ノ修正
ハ同削除ノ符號〕

保險業法中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但生命保險ノ目的トスル會社ハ生命保險ノ再保險ヲ爲スコトヲ得

第四條ノ二 保險會社カ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ主務官廳ハ必要ト認
ムルトキハ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

會社ハ主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ前項ノ供託金ニ代フルコト
ヲ得

第五條中「損害保險ヲ目的トスル會社」ヲ「保險會社」ニ改メ同條ニ左ノ一號
ヲ加フ

五 財産ノ利用方法ヲ記載シタル書類

第六條 削除

第八條中「及ヒ第六條」ヲ削除

第九條中「並ニ第六條」ヲ削除

第十一條中「其事業ノ停止」ヲ「財産ノ供託若クハ事業ノ停止」ニ改ム

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

主務官廳ハ清算事務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査シ財産ノ供託ヲ命シ其他
監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十三條ノ二 保險會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳
ハ清算人ヲ選任ス

商法第八十九條、第九十九條ノ六及ヒ第二百二十六條第二項ニ定ムル清
算人ノ選任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス此場合ニ於テハ利害關係人ノ請求
ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

商法第九十三條ノ二第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

主務官廳ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主若クハ十分ノ一
以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但此請求ヲ爲ス社員
ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ主務官廳ハ前項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任ス

ルコトヲ得

商法第二百二十八條第二項ノ規定ハ保險會社ノ清算人ニハ之ヲ適用セス

第十三條ノ三 前條ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲ
シテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ主務官廳之ヲ定ム

第二十條ノ二 會社ハ契約ヲ以テ責任準備金算出ノ基礎ヲ同クスル保險契
約ノ全部ヲ包括シテ他ノ會社ニ移轉スルコトヲ得

會社ハ前項ノ契約ヲ以テ會社財産ヲ移轉スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但
主務官廳カ其會社ノ債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ト認ムル財産ヲ留保
スルコトヲ要ス

第一項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス
前項ノ決議ハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ニ在リテハ商法第二百九條
ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條ノ三 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ移轉契約ノ要旨及ヒ各會
社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ニハ保險契約者ニシテ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘ
キ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタル保險契約者カ保險契約者總數ノ十分ノ一
ヲ超エ又ハ其保險金額カ保險金總額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ保險契約
ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條ノ四 保險契約ノ移轉ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效
力ヲ生セス

前項ノ認可申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會ノ決議錄、財産目
録、貸借對照表及ヒ前條ノ公告並ニ異議ニ關スル書類ヲ添附スルコトヲ
要ス

主務官廳ハ前項ノ書類ノ外必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十條ノ五 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會ノ決議アリタル
時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ至ル時迄其移轉セントスル
保險契約ノ同種ノ保險契約ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條ノ六 生命保險ヲ目的トスル會社カ其保險契約ノ全部ヲ移轉スル
場合ニ於テハ移轉契約ヲ以テ保險金額ヲ削減シ及ヒ將來ノ保險料ヲ減額
スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

第二十條ノ七 前條ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ第二十條ノ二第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ至ル時迄其財産ノ處分ヲ爲シ又ハ債務ヲ負擔スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但會社ノ維持ニ必要ナル費用ニ付テハ此限ニ在ラス

保險契約ノ移轉アリタルトキハ保險契約ニ因リテ生シタル債權ニシテ前項ノ規定ニ依リ支拂ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉契約ニ定メタル保險金額削減ノ割合ニ依リ其金額ヲ削減シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條ノ八 保險契約移轉ノ認可アリタルトキハ會社ハ遲滞ナク其旨ヲ公告スルコトヲ要ス移轉ヲ爲ササルニ至リタルトキ亦同シ

第二十條ノ九 會社カ保險契約ノ移轉ヲ爲シタルトキハ移轉ヲ爲シタル會社ノ其保險契約ニ付キ有スル權利義務ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ於テ之ヲ承繼ス移轉契約ヲ以テ移轉スヘキコトヲ定メタル財産ニ付キ亦同シ

第二十條ノ二第三項ノ決議ノ後ニ於テ移轉スヘキ保險契約ニ付キ爲シタル收支其他移轉スヘキ保險契約又ハ財産ニ付キ生シタル變更ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ歸ス

第二十條ノ十 會社カ其保險契約全部ノ移轉ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十條ノ十一 會社ハ解散ノ後ト雖三個月内ニ限リ第二十條ノ二第三項ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス但保險契約ノ移轉ヲ爲ササルニ至リタルトキハ此限ニ在ラス

第二十條ノ十二 第二十條ノ十ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會ノ決議錄並ニ第二十條ノ三ノ公告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル保險契約者アルトキハ其者カ保險契約者總數ノ十分ノ一未滿ニシテ其保險金額カ保險金總額ノ十分ノ一未滿ナルコトヲ證スル書面及ヒ保險契約移轉ノ認可ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十二條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ決議ノ認可ノ日ヨリ二週間内ニ合併契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十條ノ三第二項及ヒ第三項ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ保險契約者其他保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ有スル者ニモ對抗スルコトヲ得

第二十三條中「第七十七條」ヲ「第八十七條」ニ改ム

第二十五條 合併ニ因リ解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十二條ノ公告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル保險契約者アルトキハ其者カ保險契約者總數ノ十分ノ一未滿ニシテ其保險金額カ保險金總額ノ十分ノ一未滿ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十條第二項ニ左ノ一號ヲ加フ
七 一定ノ時期迄ニ會社カ成立セサルトキハ入社ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

第三十一條中「第六十三條」ノ下ニ「乃至第六十三條ノ四」ヲ加フ

第三十二條 第四十九條ノ二ノ規定ハ入社申込人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス

第三十四條第一項ニ左ノ二號ヲ加フ

四 會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルトキハ其氏名

五 數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第三十五條 商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第三十八條、第四十條、第四十一條、第四十四條、第四十四條ノ二、第四十四條ノ三第一項、第二項、第四十五條、第四十八條ノ二、第四十九條、第四百三十三條、第四百三十八條、第四百四十二條ノ二及ヒ第四百四十二條ノ三ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第七十三條第一項ノ規定ハ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リ選任ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ二 社員ノ責任カ第三十七條第二號又ハ第三號ニ該當スル相互會社ニ在リテハ定款ヲ以テ保險金額ノ削減ニ關スル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十一條ノ二 第二十條ノ二第一項乃至第三項及ヒ第二十條ノ四乃至第二十條ノ十二ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第四十四條中「總會ノ目的」ヲ「會議ノ目的タル事項」ニ改ム

第四十五條中「第五百五十八條第一項、」ヲ削リ「第六十三條」ノ下ニ「乃至第六十三條ノ四」ヲ加フ

第四十九條ノ二 商法第七十二條ノ二ノ規定ハ會社ノ社員ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス但保險關係ニ屬スル事項ニ付テハ此限ニ在ラヌ

第五十三條 商法第六十四條第二項、第六十五條乃至第六十七條ノ二、第六十九條、第七十條、第七十四條第二項、第七十六條、第七十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス
第五十五條 商法第六十四條第二項、第六十六條但書、第六十七條、第六十七條ノ二、第七十七條、第七十九條乃至第八十四條、第八十五條第一項及ヒ第八十六條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス

第七十三條第一項中「及ヒ合併ノ決議」ヲ「合併及ヒ保險契約移轉ノ決議」ニ改ム

第七十七條 削除

第七十八條中「一個月」ヲ「三個月」ニ改ム

第八十一條 削除

第八十二條 第四十四條、第五十條乃至第五十二條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條乃至第九十三條、第九十三條ノ二第二項、第九十七條、第九十九條、第一百五十七條、第一百五十九條、第六十三條乃至第六十三條ノ四、第六十四條第二項、第六十七條ノ二、第七十條、第七十六條、第七十七條、第七十九條、第八十一條、第八十三條、第八十五條第一項、第八十六條、第九十一條乃至第九十三條、第二百二十六條乃至第二百二十七條ノ二、第二百二十八條第一項、第二百三十條、第二百三十二條、第二百三十三條及ヒ民法第七十九條、第八十條、第八十三條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フ會社ノ社員名簿ニハ之ヲ適用セス

第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス支

配人ノ代理權ノ消滅及ヒ非訟事件手續法第七十三條第一項第四號ニ掲ケタル事項竝ニ其變更、消滅ノ登記ニ付キ亦同シ

第八十八條ノ二 相互會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

相互會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第八十四條第二項竝ニ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十九條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三項、第三百五條ノ四、第三百三十八條ノ三乃至第三百三十九條、第四百一條乃至第六十四條、第七十三條、第七十四條第二項、第七十五條乃至第七十七條、第八十八條、第九十三條第一項、第二項及ヒ第九十五條ノ二ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ受クスシテ保險事業ヲ營ム者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 保險會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ

二 生命保險ト損害保險トヲ併セテ營ミタルトキ

三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

四 主務官廳ノ檢査ヲ妨ケタルトキ

五 正當ノ理由ナクシテ第九十三條ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメヌ又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セザリシトキ

六 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲ササルトキ

七 第二十條ノ二、第二十條ノ三又ハ第二十條ノ五ノ規定ニ違反シテ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ保險契約ヲ爲シタルトキ

八 第二十條ノ七ノ規定ニ違反シテ財産ノ處分ヲ爲シ若クハ債務ヲ負擔スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲シタルトキ

九 第二十二條ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ

十 第九十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

第九十八條ノ二 株式會社ノ取締役、監査役又ハ清算人カ本法ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第九十八條ノ三 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ設立又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ社員ノ數又ハ基金騰出ノ引受ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ
二 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ基金ヲ償却シ其利息ヲ支拂ヒ又ハ剩餘金ヲ分配シタルトキ

三 會社ノ事業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲メニ會社財産ヲ處分シタルトキ

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セス

第九十九條中「過料ニ處セラル」ヲ「過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス」ニ改メ同條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第五號ヲ第六號トス

五 正當ノ理由ナクシテ第五十條第二項ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメサルトキ

第百條中「過料ニ處セラル」ヲ「過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス」ニ改メ第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ改メ以下順次繰上ケ同條ニ左ノ二號ヲ加フ

五 清算ノ了了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

六 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第八十條若クハ定款ノ規定ニ違反シテ殘餘財産ヲ分配シタルトキ

第百條ノ二 明治三十三年法律第五十二號ハ本法ノ犯罪ニ之ヲ準用ス

第百五條中「裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得」ヲ「主務官廳ハ其事業ヲ禁止スルコトヲ得」ニ、第二項ヲ左ノ如ク改ム

保險會社カ違法ニ事業ヲ禁止セラレタルトキハ行政裁判所ニ出訴

スルコトヲ得

第百五條ノ二 保險會社カ其事業ヲ禁止セラレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第十三條ノ二 第一項、第三項、第十三條ノ三、第七十八條、第八十七條及ヒ第九十八條第六號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百八條中「第十三條」ヲ「第十三條ノ三」ニ改ム

第百十條中「及ヒ第九十三條」ヲ「乃至第九十六條」ニ改ム

第百十二條中「第七十七條」ヲ「第二十五條」ニ改ム

第百十二條ノ二 第二十條ノ二乃至第二十條ノ十二、第二十二條及ヒ第二十五條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其保險契約ヲ合資會社若クハ株式會社ニ移轉シ又ハ株式會社ト合併スル場合ニ之ヲ準用ス但保險契約移轉ノ決議ハ舊商法第百五十一條第二項ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十二條ノ三 第二十二條、第二十五條、第七十三條第二項、商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項、第八十三條ノ三及ヒ非訟事件手續法第二百一條第一項、第二項ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲ス場合ニ準用ス

第百十三條中「第九十八條」ノ下ニ「及ヒ第九十八條ノ二」ヲ加フ

附則

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條 本法施行前ニ設立シタル會社ニシテ命令ヲ以テ第五條第二號又ハ第五號ニ掲ケタル書類ニ定ムヘキコトヲ規定スル事項ニ付キ認可ヲ受ケサルモノハ本法施行後六个月内ニ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ認可ヲ受ケタル時現ニ利用スル財産ニ付テハ其利用方法ヲ變更セサル限り認可ヲ受ケタル方法ニ依ラサルコトヲ得

第四條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其合併ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五條 第三十八條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル會社ニハ之ヲ適用セス

第六條 明治四十四年法律第七十三號附則第四條、第五條、第七條、第九

條乃至第十三條、第二十條及ヒ第二十一條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第七條 本法施行前ニ從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖其罰則ヲ適用ス

第八條 裁判所カ本法施行前ニ受理シタル清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

〔國務大臣男爵牧野伸顯君演壇ニ登ル〕

○國務大臣男爵牧野伸顯君 唯今、議長ヨリ日程ニ上セルコトヲ御諮リニナリマシテ、議題トナリマシタ此保險業法中ノ改正ノコトニ付キマシテ概略ノ説明ヲ申上ゲマス、保險業法ハ保險事業監督上、必要ナ事項ヲ規定イタシマシタノデアリマス、此手續ノ中ニ、商法及非訟事件手續法ノ條項ヲ適用シタ箇條ガ多イノデアリマス、此二ツノ法律ハ昨年十月ヨリ改正ノ法律ヲ實施スルヤウニナリマシテ、ソレガ爲ニ此保險業法ノ調和ヲ……保險業法ニ此兩法ノ中カラ適用シテアリマス箇條ト兩法ノ改正ニナリマシタ箇條ト調和ヲ圖ル必要ヲ生ジタノデアリマス、ソレガ爲ニ此度ノ改正法案ヲ提出イタシタノデアリマス、ソレガ主要ナ改正ノ理由デアリマス、尙又今日ノ現行ノ保險業法ハ明治三十三年ニ制定ニナリマシテ、其當時カラ既ニ十一年餘ノ星霜ヲ經テ居リマシテ、此間ニ保險業ハ非常ナ發達ヲ致シタノデアリマス、三十三、……三十四年ノ當時ハ保險契約高ガ大凡五億デアッタノデアリマス、四十三、……三十四年ニ於キマシテハ十七億ノ巨額ニ達シマシタノデアリマス、收入保險料モ當時ハ一千五百万バカリノモノガ、四十三年度ノ末ニ於キマシテハ三千五百万、……倍以上ニナッタ居リマス、保險仕拂高モ凡ソ當時ハ六百五十万圓ノモノガ、今日ハ一千三百万圓、總テ倍以上ノ發展ヲ致シテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り保險業ハ他ノ營業事業トハ違ヒマシテ、契約者ニ非常ナ利害ノ關係ガアリ、又一方ニ於キマシテ資金ノ運用ト云フコトガ經濟上ニ關係ガアリマスノデ特別ノ監督ヲ要スルノデアリマス、十年ノ間ニ段々當事者ニ於キマシテ監督上ニ備フ感ジタコトモアリマス、又保險當業者ニ於キマシテモ經驗上改正シテ實ヒタイト云フ事項モ段々發見イタシタノデアリマス、是等ノ事情ニ考ヘマシテ、第一ニ保險業ヲ許シマス時分ニ、免許ヲ與ヘマス時分ニ慎重ノ取扱ヲ致スト云フコト、ソレカラ會社ノ財産ヲ安固ニスルト云フコト、ソレカラ保險事業ヲ監督イタシマス機關ヲ一層統一スルト云フコト、

ソレカラ保險契約者保護ノ爲ニ此度初メテ行フコトデアリマスガ、包括移轉ト云フ手續ヲ規定イタシマシタ、且ツ相互保險會社ノ手續ヲ一層簡易ニスルト云フノデアリマス、……唯今、相互保險會社ノ手續ト申シマシタガ、會社ノ合併ノ手續ヲ簡易ニ致スト云フコトデアリマス、第五ニ相互保險ノ手續ヲ簡易ニスル、是ダケガ改正ノ重ナモルモノデアリマス、アトハ兩法律ノ改正ニ伴ウテ調和スル爲ニ改正ヲ加ヘタ點デアリマス、何卒相當ノ御審議ヲ願ヒタウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三、假置場法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕
假置場法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十二日

右特別委員長

子爵 榎本 武憲

貴族院議長公爵德川家達殿

〔子爵榎本武憲君演壇ニ登ル〕

○子爵榎本武憲君 唯今、日程ニ上リマシタ假置場法案特別委員會ノ經過ヲ御報告イタシマス、本案ハ明治三十三年四月、法律第八十二號ヲ以テ制定セラレマシタ現行ノ稅關假置場法ヲ改正イタシ輸出貿易ノ增進ノ途ヲ開クト云フ目的ノ爲ニ提出セラレタノデゴザイマス、從ッテ御報告ノ順序トシテ先ヅ本案ハ如何ナル要點ニ於テ現行法ノ規定ヲ改正イタシタカト云フコトニ付キマシテ申上ゲマス、第一ノ要點ハ現行法ニ依リマスト其第一條ニハ「稅關ニ假置場ヲ置キ」云々ト規定シ、サウシテ其施行規則第一條ニハ「橫濱神戸長崎及門司稅關管轄區域内ニ稅關假置場ヲ置ク」ト云フ條項ガ掲ゲテゴザイマス、即チ總テノ假置場ナルモノハ悉ク政府ノ經營ニ係ルモノデアッタ、謂ハユル官設ニ限ラレテ居リマス、然ルニ此法律ノ施行以來、多年實驗ノ結果、此假置場ナルモノハ必シモ政府ノ經營ニノミ限ラズトモ、民間ニ希望者ガアレバ宜シク個人若クハ法人ニ之ガ經營ヲ許シテモ差支ガ無イノミナラズ、却ッテ輸出獎勵ノ助ケトナルデアラウト云フコトヲ當局ニ於テ認メラレマシタ故

ニ、本案ニ於キマシテハ其第十三條ニ「大藏大臣ハ假置場ノ私設ヲ特許スルコトヲ得」ト云フ規定ヲ新タニ設ケテアリマス、要スルニ現行法ハ假置場ヲ單リ官設ニノミ限リマシタルニ反シ、本案ハ尙ホ私設ヲモ許スト云フコトニ改メタノデゴザイ、ス、第二ノ要點ハ現行法ニ據リマスレバ假置場内ニ於ケル藏置貨物ニ對シテハ其包裝ヲ仕變ヘマスとか或ハ仕分ヲシマスとか、貨物ニ破損ガアレバ手入ヲシテ之ヲ直スナド、云フコトハ出來ルノデアリマス、併ナガラ此法律施行後ノ經驗ト今日ノ實際ノ情況ニ照シテ見レバ、斯ノ如ク單ニ貨物ノ改裝、仕分、手入ガ出來ルダケ位ノコトデハ、仕事ノ範圍ガ狹クテ輸出貿易業者ニ十分便利ヲ與ヘルコトハ出來マセヌ、ソレ故ニ其仕事ノ範圍ヲ擴張シテ或ル假置場ニ輸入シタル外國貨物ニ對シテハ、其儘其所デ之ニ加工ヲ爲シ、又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲スコトヲ許シ、サウシテ其加工品ナリ、製造物ヲ再ビ海外ニ向ッテ輸出スルコトノ出來ル途ヲ開キマシタナラバ輸出税ノ金利ヲ初メ、其他ノ手數ヲ省キ得ルコトガ出來、營業者ニ多大ノ便宜ヲ得ルノミナラズ、延イテ輸出貿易ノ増進ヲ見ルデアラウト云フ見解ヨリ、本案ニ於キマシテハ其第三條ノ第一項ニ假置場内ニ於テ外國貨物ニ對シテ加工製造ヲ許ス旨ノ規定ヲ新タニ設ケテアリマス、要スルニ現行法ハ假置場内ニ於ケル藏置貨物ニ對シテハ單ニ改裝仕分其他ノ手入ヲ爲シ得ルニ過ギマセヌ、本案ニ於キマシテハ尙ホ之ニ加工製造ヲ許スト云フコトニ改メテ居リマス、以上述べマシタル二點ハ本案改正ノ主要ナル眼目デアリマス、其他本案ハ現行法ニ比ベマスと多數ノ條項ガ規定サレテアリマスガ、是ハ詰リ外國貨物ニ對シテマダ關稅ヲ取ラナイ中ニ假置場ト云フ一定ノ區域内ニ於テ加工製造ヲ許スノデアリマスカラ、嚴重ナル取締ヲ加ヘマセスト、自然關稅ノ虞ガ起リ易イノデゴザイマス、ソレ故ニ假置場ノ取締、貨物ノ整理ニ關スル處分及犯則者ニ對スル懲罰等ニ付イテ必要ナル規定ヲ種々設ケラレタル次第デアリマス、委員會ハ三回開カレマシテ本案ニ向ッテ綿密ナル審査ヲ遂ゲマシタ、各委員ヨリ或ハ法文ノ解釋ニ付イテ疑義ヲ問ハレ或ハ規定ノ適用ニ關シテ利害ヲ質サレ、或ハ輸出ノ獎勵ニ對シテ立法ノ趣旨ヲ徵サレ、各種ノ質問相次イデ起リマシタガ、政府委員ヨリ之ニ對シテ明晰ナル答辯ガアリマシタ、是等ノ委シイコトハ速記録ニ讓リマシテ唯其大要ヲ御參考ノ爲メ申シマセウト思ヒマス、其重モナル質問ハ之ヲ綜合シマスと大體三種ニ分類スルコトガ出來マス、第一ハ假置場設置ノ地區ニ關スル質問デアリマス、

其二三ノ例ヲ申上ゲマスレバ、政府ハ現在ノ假置場ヲ擴張シ又ハ現在ノ假置場所以外ノ開港地ニ假置場ヲ設置スル意思ガアルカ、又ハ現在ノ假置場、官設假置場ノ地域内ニ於テ工場ノ施設ヲ出願スル者ガアレバ之ヲ許可スルヤ否ヤト云フ質問デアリマス、之ニ對シテ政府委員ハ次ノ如ク答辯ヲサレマシタ、政府ハ唯今ノ所、現在ノ假置場ヲ擴張イタストカ、又ハ現在ノ假置場ヲ設ケテアル横濱、神戸、長崎及門司以外ノ開港場ニ、新タニ官設假置場ヲ置カウト云フ考ハ有ッテ居リマセヌ、又現在ノ假置場ハ地形上、其地域内ニ私設工場ヲ許スコトハ出來マイト思ヒマス、二、私設假置場ヲ特許スル地區ニ付イテ一定ノ制限デモアルカト云フ質問デアリマス、之ニ對シテ政府委員ハ大要左ノ如ク答辯ヲセラレマシタ、私設假置場ヲ特許スル地區ハ先ヅ開港場ノ内ト考ヘマス、併シ必シモ稅關ノ附近ニハ限リマセヌ、現ニ今日政府ノ經營スル假置場デアッテ、稅關ヨリ相當隔リタル地區ニ置カレタモノモアリマス、故ニ稅關ヲ隔ル距離ノ遠近ハ敢テ問フ所デアリマセヌ、又假令假置場以外ノ地區デゴザイマシテ、其事業ノ性質ガ本案ノ目的ニ適シ、且ツ其經營設備等ニ於テ政府ガ十分脫稅其他ノ取締ガ出來ルト認メマシタトキニハ、私設假置場ノ特許ヲスル考デアリマス、例ヘバ神戸デ陸揚シタ貨物ヲ鐵道デ京都ノ假置場ニ運ビ、ソコデ加工製造ノ上再ビ神戸ヨリ輸出スルト云フガ如キ其一例デアリマス、但シ假置場ハ元來、輸出貨物ヲ取扱フコトヲ目的ト致シマスカラ、開港場ヨリ遠ク離レタル地區ハ、取締運搬其他種々ノ不便ガ伴ヒマスユエ、交通不便ナル山間僻地ニハ事實上、假置場ハ出來ナイコト、思ハレマス、三、既設工場又ハ其中ノ一部ヲ區畫シテ私設假置場ノ特許ヲ受ケルコトガ出來ルカト云フ質問デアリマス、之ニ對シテ政府委員ハ次ノ如ク答ヘラレマシタ、政府ニ於テハ第一、工場ノ所在地、第二、事業ノ性質及經營ノ方法、第三、取締ニ要スル設備ノ狀態ヲ調査ノ上、適當ナリト認メマシタトキハ、雙方共ニ許可スル考デアリマス、是等ノコトハ施行規則ノ中ニ規定スル積リデアリマスガ、政府ハ私設假置場ヲ特許シマスと共ニ稅關ノ官吏ヲ派遣シテ取締ヲ命ジマス、若シ其假置場ヨリ他ノ場所ヘ出入スル通路ガアリマスレバ其所ニ嚴重ナル障壁ヲ繞ラシ、晝間ノ時間ハ官吏ヲシテ監視サセ、貨物ノ出入ニハ一々誰何スルト云フコトニ致シマス、又其門戶警衛者ノ鍵ト稅關吏ノ鍵ト二重ノ鍵ヲ用キナケレバ開クコトガ出來ナイヤウナ構造ニ致サセマス、斯ノ如ク假置場ノ内外儼然タル區畫ノ出來ル設備サヘ整ヘバ、單獨ナル建物デ

アラウト、同一ナル建物又ハ構内デアラウト、假置場タルコトヲ特許スル上ニ更ニ區別ガアリマセヌ、第二ハ内國ノ産業ニ及ボス所ノ影響ニ付イテノ質問デアリマス、其一ノ例ヲ舉ゲマスレバ、一、假置場内ニ於テ無稅ナル原料ヲ使用スル製造ヲ許ス結果、假置場外ニ於ケル工業ニ向ッテ打撃ヲ與フルノ虞ハナイカト云フ質問デアリマス、之ニ對シテ政府ハ大要次ノ如ク答ヘラレマシタ、此點ニ付キマシテハ立案ノ際、研究ヲ重ネマシテ、成ルダケ其不釣合ノ無イヤウニシタ積リデアリマス、其次第ハ假置場ニ於テ製造シタ品物ハ總テ外國ヘ輸出スルノガ主眼デアッテ、是ハ内國ヘ輸入スルコト云フ目的デアリマセヌ、又實際外國ヘ輸出イタシマセヌトキハ、此制度ヲ利用スル上ニ付イテ十分ノ目的ヲ達シ得マイト思ヒマス、併ナガラ假置場製造シタ品物ノ輸入ヲ絕對ニ禁止スルコトハ是亦事業家が不便ヲ感ジマセウカラ、輸入ヲ許サヌノデハアリマセヌガ、其場合ハ本案ノ第五條ノ規定ニ從ッテ輸入稅ヲ取リマス、例ヲ小麥ニ取ッテ説明ヲシマス、外國カラ輸入シタル貨物ヲ假置場ニ於テ製粉イタシ、之ヲ再ビ外國ヘ出シテ仕舞フト、無稅ヲ濟ンデ仕舞ヒマスガ、其製粉ヲ内地ニ於テ賣ラウトシマス、小麥ノ稅ヲ取ルノデナクシテ製粉サレタ小麥粉ニ稅ヲ課ケマス、又假ニ日本ノ小麥ヲ外國ノ小麥ト一緒ニ假置場ニ於テ製粉イタシ、ソレヲ内地ヘ入レヤウトスル場合ニ於テ、其全部ニ對シテ小麥粉ノ稅ヲ課ケマス、即チ製造サレタ現場ニ於テ課稅ヲ致シマス、斯ノ如キ關稅ヲ負擔シナイ小麥ノ製粉ニマデ課稅スルノハ不當デハナイカト云フ論モ出マセウガ、是ハ詰リ假置場ト云フモノハ輸出ヲ主タル目的トスル場所デアルカラ、ソレガ内地ノ製品ヲ持來ッテ内地ノ原料ヲ持來ッテ、其製造物ヲ内地ヘ入レヤウトスルノハ不利益ナル場所デアルト云フコトニ此法律上定メマシテ、一ハ内地ノ工業トノ鈞合ヲ取り、一ハ取締ヲ簡便ニシヤウト云フ趣意デアリマス、ソレ故ニ外國ヨリ小麥ヲ假置場ニ入レテ、内地ノ消費ニ供スルガ爲ニ製品ノ稅ヲ拂ヒマシタナラバ、到底事業家ハ引合ヒマセヌ、事實ニ於テ不利益デアリマスルガ故ニ、已ムヲ得ザル場合ノ外ハ斯ウ云フコトハ起ラヌデアラウト思ヒマス、尙又製造稅營業稅所得稅等ニ付キマシテハ、假置場ノ内外ニ於テ少シモ區別ガアリマセヌカラ、内地ノ工業ニ向ッテ事實上打撃ヲ與フルコトハアルマイト思ヒマス、二、本案ハ輸出ヲ目的ト爲サル工業ニ向ッテハ何等ノ打撃ヲ與ヘザルガ故ニ、輸出ヲ目的トスル假置場外ノ工業ニ對シテハ、果シテ權衡ヲ失ハナイカト云フ質問デアリマス、

之ニ對シテ政府委員ハ大要次ノ如ク答ヘラレマシタ、假置場附近ニ在ル工場ハ此制度ノ便宜ヲ得ラル、ニ拘ラズ、假置場ヲ遠ク離レタル内地ノ工場ハ本案ノ便宜ヲ得難イタメ、其工業ノ壓迫ヲ受ケハシマイカト云フ問題ニ對シテハ、幾分サウナルダラウト申スヨリ外アリマセヌ、蓋シ交通ノ不便ナル場所ニ在ル工場ハ、交通便利ナル位置ヲ占ムル工場ニ對シテ、競争上不利益ナル狀態ニ立ツノハ自然ノ結果デアッテ、ドウモ致シ方アリマセヌ、サリトテ全國到ル所、皆此制度ヲ施クコトハ到底ムヅカシイコトデアルト思ヒマス、法律上ノ勸キハ分釐違ヒノナイヤウニシタイコトハ固ヨリ希望スル所デアリマスケレドモ、實行上ニ於テ頗ル困難ガアリマスカラ、場所ノ不便ハ之ヲ忍バナケレバナルマイト思ヒマス、加之關稅法上無稅ノ原料ヲ使用スル工場ハ暫ク別トシマシテ、有稅ノ原料ヲ使用スル輸出ヲ目的トスル工場ヲ開港場ヨリ遠ク離レタル内地ニ置クト云フコトハ、運搬其他總テノ點ニ於テ不利デアリマスカラ、事實ニ於テハ少カラウト思ヒマス、第三ハ輸出ノ獎勵ニ對スル質問デアリマシタ、其一ノ例ヲ舉ゲマスレバ、一、漁獲物ノ收拾ニ便宜ナル地點ニ假置場ヲ置イテ、鰯、鯡其他ノ魚類ヲ鹽藏スルニ當ッテ、内地鹽ト比較スレバ其品質ニ於テ良好、其價格ニ於テ低廉ナル外國鹽ヲ使用スルコトガ許サル、ナラバ、鹽魚ノ輸出ヲ盛シナラシムルコトハ疑ヒモナイ事實ト思フガ、本案第三條第二項ノ規定ニ依ッテ、若シ大藏大臣ガ外國鹽ヲ假置場内ニ於テ製造ヲ爲スコトヲ得ベキ貨物ノ種類中ニ指定スレバ、鹽專賣法ノ規定ニ關係ナク、是等ノ鹽藏ヲ爲スコトガ出來ルカト云フ質問デアリマス、之ニ對シテ政府委員ハ次ノ如ク答ヘラレマシタ、如何ニモ本案ノ第三條ヲ見マスト外國鹽ト雖モ假置場ニ入レルコトガ出來ルヤウニ見エマスガ、併シ之ニ付キマシテハ鹽ハ專賣品デアリマスルガ故ニ自ラ鹽專賣法ノ支配ヲ受ケルコトニナリマス、鹽專賣法ノ第五條ニハ「政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ非サレハ所有シ、所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ス」ト云フ規定ガアリマス、固ヨリ假置場ト雖モ專賣法ノ施行區域内デアアルコトハ勿論デアリマスカラ、此第五條ノ規定ニ依リマシテ假置場法ノ規定ニハ從ハヌノデアリマス、即チ假置場ニ於キマシテモ外國鹽ノ所有、所持、又ハ消費ヲ禁ゼラレテ居ルモノト解釋シテ居リマス、二、假置場ニ於テモ斯ノ如ク鹽專賣法ノ適用ヲ受ケルトスレバ、輸出ノ見込アル鰯、鯡等ノ鹽藏ニ内地鹽ヲ使用スル結果、輸出ニ不利ヲ來タスコトニナッテ折角輸出獎勵ノ目的ヲ以テ假置場ヲ設ケラレ

タル趣旨ニ反スルヤウニ思フガ、其理由ニ付イテ説明ヲ求メルト云フ質問デアリマス、其實問ニ關聯シマシテ專賣局長官ハ、鹽專賣ノ現況、外國鹽ノ情況、其他ニ付キマシテ極メテ詳細ニ説明セラレテ居リマス、尙ホ之ニ關シテ他ノ質問ニモ答辯ガアリマシタガ、是等ノ事ハ本案ニ直接ノ關係ガアリマセスカラ茲デハ唯此質問ニ對スル答辯ノ範圍内ノ大要ヲ述ベルニ止メマス、即チ開港場ノ假置場ニ於キマシテ鹽專賣法ノ規定ヲ除外シテ輸出ノ見込アル鰯、鯡等ノ鹽藏ニ外國鹽ヲ使用スルコトヲ許シテモ宜イデハナイカ、然ラザレバ本案ノ趣旨ニ反スルデハナイカト云フ意味ノ御質問ト思ヒマスガ、例ヘバ長崎ノ沿岸デ取レタ鰯ヲ長崎ノ假置場ニ入レマシテ、獨逸鹽ヲ用キテ製造シテ南清地方ニ輸出シマスレバ一種ノ輸出獎勵ニナルヤウニモ考ヘマス、單ニ其點ノミヨリ申セバ外國鹽ヲ假置場ニ藏置スルコトヲ許シテモ差支ナイカノ如ク思ハレマスケレドモ、之ヲ大體カラ觀察イタシマスルト鹽專賣ノ制度ニ影響ヲ及ボシマシテ、延イテ國家經濟ニ不利益ヲ來タスデアラウト思ヒマス、例ヘバ魚類ノ鹽藏ニ外國鹽ヲ用キルコトヲ、長崎ノ如キ或ル特定ノ假置場ニ限ッテ之ヲ許スコトガ法律上出來マスレバ格別デアリマスケレドモ、既ニ專賣品タル鹽ト雖モ假置場法ノ適用ヲ受ケテ、ソコヘ藏置シ又ハ消費スルコトガ出來ルト云フ例ヲ開キマスル以上、何レノ假置場ニ於テモ、又如何ナル目的ノ爲ニ外國鹽ヲ入レルコトガアリマシテモ、其藏置又ハ消費ト云フコトヲ許サナケレバナラヌヤウニナラウト思ヒマス、果シテサウナリマス、品質ガ良ク價格ガ廉イ外國鹽ヲ假置場ニ藏置シ又ハ消費スル結果、内地鹽ノ生産ノ過剩ヲ生ジ、ソレガ爲ニハ鹽田整理ノ爲ニ公債ヲ發行シマス、又ハ外國鹽消費ノ爲ニ正貨ノ流出ヲ見マス、單リ專賣法ノ基礎ヲ動カスバカリデナク、延イテ國家ノ財政上容易ナラザル影響ヲ及ボス虞ガアリマセウカラ、單純ナ鹽魚輸出ト云フ一點ノミヲ以テ此假置場法ニ於テ鹽專賣法ノ規定ヲ除外スルコトハ出來ナイコト、考ヘマス、併ナガラ政府ニ於キマシテモ目下調査中デアリマスカラ鹽魚輸出ニ便宜ヲ與ヘマス爲ニ内地鹽ヨリモ品質ノ宜シイ臺灣鹽、關東州鹽等ノ賣渡價格ヲ引下ゲルコト、又交付金ノ下付ヲ迅速ニ取計ラフコト、及鹽魚輸出ノ場合ニ稅關ニ於テ檢定スル方法ハ從前ヨリ簡略ニスルコトノ三箇條ハ、遠カラズ實行スルト云フコトヲ言明シテ置キマス、云フ答辯ガアリマシタ、委員會ニ於キマシテハ以上大要ヲ述ベマシタル如キ質問終了後討論ニ移リマシタガ、要スルニ我が貿易ノ狀態ハ近年殊ニ

輸入超過ノ逆調ヲ呈シテ居リマス時ニ當リマシテ、輸出貿易ニ便宜ヲ與ヘ益、

其増進ノ途ヲ開カウト云フ目的ノ爲ニ提出セラレマシタ本案ノ如キハ、假令其内容ニ於テ其目的ヲ貫徹スルニ十分ナリト或ハ申シ難キニモセヨ、謂ハユル時勢ノ要求ニ應ズルモノデアルト云フコトヲ認メマシテ、委員會ニ於キマシテハ本案ノ規定全部ニ對シ何等ノ異論モ無ク全會一致ヲ以テ可決イタシタ次第デゴザイマス、此段御報告イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○中島永元君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ……

○子爵前田利定君 賛成

「賛成」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第二讀會ヲ開クベシトスル中島君ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス、……委員長ノ報告ヲ可トセラル、諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○中島永元君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ……

○伊澤修二君 賛成イタシマス

「賛成」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通りデ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第四、陸軍作業會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

陸軍作業會計法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十四日

右特別委員長

伯爵 松平 直之

貴族院議長公爵徳川家達殿

「伯爵松平直之君演壇ニ登ル」

○伯爵松平直之君 本員ハ陸軍作業會計法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過ヲ御報告申シマス、一昨十四日委員長互選後、引續キマシテ委員會ヲ開會イタシマシタ、第一ニ政府委員ノ説明ヲ求メマシタ、委員ヨリ四五ノ質問モ出マシテゴザイマス、結果ハ一ノ反對モ無ク全會一致ヲ以テ可決イタシマシテゴザイマス、此案ハ元ト軍事費ヨリ支辨ニナツテ居リマシタ六十六萬餘圓ノ金ヲ作業會計ニ移シマシタノデ、詰リ議案ニモゴザイマス通リ給料トカ廳費トカ旅費トカ云フモノガ軍事費カラ出テ居リマシタ、之ヲ作業會計ニ移シマシテ一ノ會計ニ致シタノデゴザイマス、誠ニ簡單ナ案デゴザイマス、是マデハ随分ニツニ會計ガナツテ居リマシタノデ、政府ノ取扱モ餘ホド煩雜ダッタサウデゴザイマス、此案ガ可決イタシマスレバ餘ホド取扱上ニ便利ヲ得マスサウデ……、報告ハ是デ止メマシテ、若シ御質問ガゴザイマスレバ政府委員ヘ御問ヒテ願ヒマスト詳細ナル説明ガアラウト思ヒマス、終リニ臨ミマシテ一言申上ゲマス、此案ハ前述ベマシタ通り誠ニ簡單ナ案デゴザイマス、讀會省略ノ動議ヲ提出イタシマス、諸君御賛成ヲ願ヒマス

○子爵樋口誠康君 賛成

○伯爵奥平昌恭君 賛成

○伯爵寺島誠一郎君 賛成

○男爵中川興長君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○男爵野田裕通君 賛成

○岩村兼善君 賛成

○小野田元熙君 賛成

○男爵山内長人君 賛成

「其他「賛成」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 松平伯爵ノ讀會省略ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 委員長ノ報告ニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第五、煙草專賣法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

「東久世書記官朗讀」

煙草專賣法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十五年三月十二日

衆議院議長 大岡 育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

煙草專賣法中左ノ通改正ス

第十一條中「量目」ノ下「又ハ葉數」ヲ削ル

第十二條第一項及第三項中「量目」ノ下「又ハ葉數」ヲ削ル

第十七條中「量目」ノ下「又ハ葉數」ヲ削ル

「政府委員濱口雄幸君演壇ニ登ル」

○政府委員(濱口雄幸君) 此法律案ハ衆議院ノ提出ニ係ルモノデゴザイマスルガ、葉煙草ノ數量ヲ査定シマスルニ付キマシテ、現行ノ專賣法ノ規定ニ於キマシテハ「收穫量日又ハ葉數ヲ査定ス」、斯ウ云フ規定ニナツテ居リマシテ、量目ノ査定ヲヤリマシテモ、又葉數ノ査定ヲ致シマシテモ、何レニ依リマシ

テモ差支ノ無イコトニ規定サレテ居リマス、然ルニ葉數査定ノ方ハ手數ガ掛
リマシテ、官民雙方ノ勞費ヲ要スルト云フ理由ヲ以テマシテ、法律上カラ葉
數査定ノ規定ヲ削除イタシマシテ、量目査定ノミニ致シタイト云フノガ此案
ノ趣意ノヤウニ考ヘマス、然ルニ政府ハ之ニ對シマシテ反對ノ意見ヲ有ッテ
居リマス、現行ノ如クニ量目又ハ葉數、其何レヲ用キテモ差支ノ無イト云フコ
トニ致シテ置イタ方ガ事業ノ經營上最モ必要デアルト云フ考ヲ有ッテ居リマ
ス、是ヨリ簡單ニ其反對ノ理由ヲ申上ゲタイト考ヘマス、元來葉煙草ノ數量
ヲ査定シマスルコトハ、犯則ヲ未然ニ防ギマシテ、煙草專賣ノ事業ヲ圓滿ニ
經營シテ行ク上ニ於キマシテ最モ肝要ナコトデアリマス、隨ッテ是ガ査定ノ
方法ハ最モ正確ナルモノデナケレバナラスコトハ申スマデモナイコト、考ヘ
マス、然ルニ從來ノ實蹟ニ依ッテ考ヘテ見マスルト、葉數査定ノ方ガ量目ノ查
定ニ比較シマシテ遙ニ正確デアルト云フ結果ヲ示シテ居リマス、若シモ煙草
耕作者ノ風儀ガ至ル所、善良ニ趣キマシテ、如何ナル場合ニ於テモ犯則ヲスル
虞ガ無イト云フ理想ノ域ニ達シマスレバ兎モ角モデゴザイマスルガ、今日ノ
現狀ノ如クニ煙草ニ關スル犯則ノ數ガ、一箇年全國ヲ通ジマシテ大凡一萬件
ニ上ラムトスル情況デアリマス、又其罰金ノ收入モ殆ド二十萬圓ニ上ラムト
スル現狀デアリマスル以上ハ、其査定ノ方法ト致シマシテハ、ドウシテモ最モ
正確ナル方法ニ依ルコトガ必要デアルト考ヘマス、然ルニ今直チニ法律ヲ改
正シマシテ、正確デナイ所ノ量目査定ノ一法ノミニ依ラシムルト云フコトハ
事業上頗ル危險デアルト考ヘマス、現在ノ政府ノヤリ方ト致シマシテハ「量目
又ハ葉數」トアリマスケレドモ全國ヲ通ジテ一律ニ葉數ニ依ッテ査定ヲシテ
居ルト云フコトハアリマセヌ、又量目ノミニ依ッテ査定ヲシテ居ルト云フコ
トモアリマセヌ、詰リ地方ノ情況ト竝ニ犯則者ノ風儀ノ如何ニ依リマシテ危
險ノ無イト認メタ所ニ限ッテ、一定ノ條件ヲ限リマシテ量目ノ査定ヲ適用イタ
シテ居リマス、然ラザル所ハ葉數ノ査定ヲ行ッテ居ルト云フ實況デアリマス、
然ルニ其簡易ナル量目査定ノ適用ヲ受ケマス所ノ町村ハ年々増加イタシテ參
リマシテ、最近ノ實蹟ニ於キマシテハ全國ノ煙草耕作ノ總段別三萬町步ニ對
シマシテ量目査定ノ適用ヲ受ケテ居リマス所ガ八千町步ヲ超エテ居リマス、
即チ約三分一弱ニ當ル所ハ業已ニ量目査定ノ適用ヲ受ケテ居ルト云フ、斯ウ
云フ情況デアリマス、果シテ然ラバ今此法律ヲ改正イタシマシテ、量目査定ノ
ミニ依ラシムルト云フコトハ、實ニ其必要ヲ認メマセヌノミナラズ、延イテハ

諸般ノ弊害ヲ起シマシテ或ハ專賣制度ノ根柢ヲ動カスト云フ結果ニナラムコ
トヲ恐レマス、是等ノ理由ニ依リマシテ政府ハ此改正案ニハ反對ヲ表シマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第六、水利組合法中改正法律案、衆議院
提出、第一讀會ノ續、委員長報告

水利組合法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十四日

右特別委員長

子爵 京極 高備

貴族院議長公爵德川家達殿

〔子爵京極高備君演壇ニ登ル〕

○子爵京極高備君 水利組合法中改正法律案、是ノ特別委員會ノ模様ヲ簡單
ニ御報告申上ゲマス、特別委員會ハ一昨十四日ニ一回開キマシタ、規定ノ正
副委員長ノ選舉ニ引續イテ會議ヲ開キマシテ、種々二三ノ質問ガゴザイマシ
タ、ソレデ此法案ハチヨット見マスルト如何ニモ簡單デ能ク分カルヤウニ見
エマスケレドモ、此立案者ノ意思ガ十分ニ徹ッテ居ラナイヤウデゴザイマ
ス、ソレハ立案者ノ意思ハ水利組合ノ事業施行ノタメ灌漑排水ヲ受クベキ總
テノ土地ト云フ意味ダサウデゴザイマス、ソレデ之ニ付イテ政府ノ意見ヲ聞
キマシタ所ガ、政府ハ此案ニハ同意スルコトハ出來ナイ、其理由ノ重モナル
モノヲ申上ゲマス、大體ハ衆議院ノ速記録ニ出テ居リマスカラ省キマシテ、
先ヅ第一ニ此水利組合事業ト云フモノト灌漑排水ヲ受クベキ土地ノ事業ト云
フモノハ全然別ノモノデアアル、既ニ水利組合ノ事業ノ方ハ登録稅法ノ第十九
條ノ第二項ニ據ッテ登録稅ヲ免除サレテ居ルコト、ナッテ居リマス、ソレデ
此灌漑排水ヲ受クベキ土地ノ事業ト云フモノハ全ク水利組合事業トハ別ノモ
ノデ、個人ノヤル事業デアッテ稅法ノ一般ノ規定カラ申セバ、個人ノ登録稅
ト云フモノハ免除シテナイノデアリマス、ソレデ其一般ノ規定ト此規定ガ矛
盾スルコトニナルノデ、政府ハ此案ニ同意スルコトハ出來ナイト云フコトデ
ゴザイマス、委員會デハ如何ニモ此案ハ簡單デゴザイマスガ、審査ハ如何ニ
モ鄭重ニ審査ヲシマシタ結果、政府ノ言フ所ヲ是ト致シマシテ全會一致ヲ以
テ否決スルコトニナリマシテゴザイマス、チヨット其段ヲ御報告申上ゲマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無シ

○議長(公爵徳川家達君) 起立者ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

(東久世書記官朗讀)

朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案特別委員

子爵勘解由小路資承君 子爵青木 信光君 男爵岡内 重俊君

男爵杉 溪言長君 男爵島津 隼彦君 千頭 清臣君

馬屋原 二郎君 植竹三右衛門君 麻生 太吉君

保險業法中改正法律案特別委員

伯爵柳澤 保惠君 子爵加納 久宜君 子爵一柳 末徳君

男爵辻 新次君 男爵武井 守正君 男爵若王子 文健君

室田 義文君 日高榮三郎君 伊藤 由太郎君

煙草專賣法中改正法律案特別委員

伯爵奥平 昌恭君 子爵唐橋 在正君 子爵山口 弘達君

子爵稻垣 太祥君 男爵中川 興長君 男爵岩倉 道俱君

仁尾 惟茂君 佐藤 源藏君 美馬 儀一郎君

○議長(公爵徳川家達君) 追々閉會ノ期ニ近寄リマシタカラ、正副委員長ノ選舉ハ成ルベク速ニ行ハレマシテ議長マデ御報告ニ相成ルコトヲ希望イタシマス、明後日ノ議事日程ハ彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是デ散會イタシマス

午前十一時五分散會